

「阿賀の宝もん」発掘記☆

aga-no-takaramon hakkutsu ki

準備号

2010年7~8月号

「映像作品と環境プログラム」づくり
に明け暮れた今夏

今夏は、あおぞら財団（大阪）主催の「新潟水俣病スタディツアー」のため、FM事業では鹿瀬地域のフィールドワークの企画を担当しました。

どうせ企画を立てるなら…と発想を転換して、これまで培ってきた手法や成果を活用しつつ、今後のFM事業を大幅に進展させる具体的な成果を残すことにしました。

一つは、これまで収集・整理してきた貴重な写真群を活用した映像作品づくり。見た人から深い理解や共感を得ることができ、ツールとして、様々な場面での活用が期待されます。

もう一つは、環境学習プログラムづくりの貴重な機会と捉えること。ここで力を抜かず、きちんとして作り込むことで、FM事業として環境学習を通じて本来に伝えたいメッセージなどを見出せるのではないかと期待しています。

映像作品ができあがるまで

～「共感と実感」が湧く作品づくりを目指して～

今号の注目!

■イベントの成果を次につなげるために…

今夏完成した映像作品「ハーモニカ長屋から眺めた風景」写真で綴る鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」。制作のきっかけは、地域再発見講座（第2回）で流され反響を呼んだ、当時の鹿瀬地域の貴重な写真の数々でした。

いつもはイベントの開催に力を注ぐあまり、成果をそのままにしがちでしたが、今回は「あの写真を活かして次につながる何かを残せないか」と事務局の中で話し合った結果、映像作品づくりを開始することになりました。

■当時の鹿瀬の人々の心情が伝わる作品

制作に際しては、「当時の鹿瀬地域の雰囲気や人々の心情が伝わる」作品づくりを心がけました。そうすることで、当時の鹿瀬を知る人々が見ても、新潟水俣病の発生に触れているにも関わらず、多くの共感を覚えてもらえるからです。

一方、当時の鹿瀬を知らない人々や世代が見ても、昔の写真をちりばめた構成が効果を発揮するためか、当時の状況が実感を伴って心に迫ってくるので、単なる公害批判を越え、「もし当時の人々と同じ立場だったら…」と自分の問題として考える学習効果も期待しています。

●地域再発見講座（第2回）の開催概要



ハーモニカ長屋と呼ばれた昭和電工の社宅で、高校卒業まで過ごされた沖田信悦さんをゲストに迎え、あの頃の企業城下町・鹿瀬を、会場を訪れた大勢の皆さんと共に振り返りました。

- 「ハーモニカ長屋から眺めた風景～鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」
- 日程：平成22年3月27日（日）
- 場所：新三川温泉 ホテル三川

映像作品の構成

◆生活面から徐々に工場内部へ…など、感情移入しやすい構成を工夫しました。



▼懐かしさを感じさせる昭和電宅の思い出の数々



▼多くの労働者が工場へと向かう通勤風景



▲やがて観客の視点は本格的に工場内部へ



▲現在の鹿瀬地域の寂しい現状



▲昭和電工と切っても切れない鹿瀬の暮らし



映像作品を上映しました！
感想は「えとこたより3号」に掲載

■地域再発見講座（第3回）

- 「阿賀野川の忘れられた光と影」
- 日程：平成22年8月22日（日）
- 場所：阿賀野市安田公民館



映像作品を活用した今後の展開

●FM事業の方向性を直感的に理解してもらい、共感を覚えていただくためのツールとして、ロバダンやイベントの際に参加者に観賞してもらいます。

●今後、環境学習プログラムを実施していく際に、参加者への座学用のツールの一つとして活用していきます。

資料を収集し、丹念に整理する。 地道な作業こそ、事業を前へ進める。

映像作品制作の舞台裏とは…

今やFM事業の推進に不可欠な
資料整備ワーキングチームの
作業状況を紹介しします。

映像作品に関する
資料整備作業の様子

全ての基本は資料整備から
映像作品の制作を始め、地域再発見講座やパネル展など、現在、FM事業で行う様々な事業は、資料整備ワーキングチームの作業抜きには成立しない状況となっております。その意味で、資料整備WTは、まさに、FM事業における「縁の下の力持ち」的な存在と言えるでしょう。
具体的には、流域内外から収集した膨大な資料の数々を、電子データ化して保存すると共に、資料ごとに個票を作成し、データベース化して整理する作業を日々行っています。
こうした一見地味だけど地道な努力こそが、実はFM事業を着実に推進させる大きな原動力の一つとなっています。

<p>平成 21 年度 資料整備 WT 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○沖田氏借受資料 <ul style="list-style-type: none"> ・整理頁数:378 枚 ・整理写真:79 枚 ○その他資料 <ul style="list-style-type: none"> ・整理写真:244 枚 				
	映像作品や講座へ活用	資料の個票を作成・データ整理	電子データ化・保存	沖田氏等から写真等を借受

※あおぞら財団：大阪西淀川大気汚染裁判の和解を契機に、公害地域の再生を目指して設立された団体

新潟水俣病スタディツアー・鹿瀬地域フィールドワーク・レポート

環境学習プログラムづくりのポイント

- 環境学習は、①座学と②現地体験をセットとする。
- 座学は、なるべく教室の授業や講義のような説明形式を避けて、紙芝居や映像作品、パネル展示などを活用した、直感的に理解できる方法で行う。
- 現地体験は、草倉銅山から新潟水俣病の発生へと連なる、光と影の歴史を踏まえた流れとする。

■環境学習プログラムを試行する貴重な機会
今夏、「あおぞら財団」(※)主催の「新潟水俣病スタディツアー」が開催され、FM事業は鹿瀬地域をフィールドワークする企画を担当することになりました。
FM事業では、新潟水俣病と草倉銅山を柱とした環境学習の運営を目指しており、パネル展・地域再発見講座・資料整備などを通して、情報整理や考え方の深化を図ってきました。
そこで、これまでの蓄積を基に環境学習プログラムをつくり込み、この機会を活用して試行させていただくことになりました。

★ツアーを終えて…

- 事前の準備不足がたたたり、当日は決して満足のいく出来ではなかった。
- しかし、このプログラムを改善していけば、単なる公害批判を越え、自らの問題として考えてもらえる環境学習を目指せるのではないかと感じた。

新 潟 水 俣 病	草 倉 銅 山		
阿賀町鹿瀬支所に映像作品を用いて座学。	鹿瀬工場跡地や排水口以外にも鹿瀬街中を巡る。	草倉銅山スポットを本山を中心に現地体験。	塩屋橋にて紙芝居「草倉銅山物語」を用いて座学。
座 学	現 地 体 験	座 学	

当日プログラム紹介

阿賀野川え〜とこだプロジェクトとは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称 FM 事業)。
阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクト。

編集後記

FM事業の目的は阿賀野川流域の「もやい直し」。ところが、私たちは往々にしてこの原点を忘れがちになってしまいます。発掘記では、そこに立ち返るためにも、これまでの事業を振り返ります。

準備号 2010年7~8月号

発行：新潟県(2011年1月7日)

企画編集：阿賀野川え〜とこだプロジェクト

●事務局/〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1

TEL&FAX：0250-68-5424

E-mail：aganogawa@niigata.email.ne.jp

URL：<http://www.aganogawa.info/>

阿賀野川
えとこだ
プロジェクト